

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	文学B		
英文授業科目名	Literature B		
開講年度	2007年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	島内 景二		
居室	東1-815		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>高校時代に諸君が学習した(学習させられた)「日本文学史」は、おそらく退屈なものだったことだろう。この講義では、そのようなイメージを一新し、「楽しい日本文学史」を講義したい。現代の目から、見る。そして、自分自身の問題意識との関わりにおいて、考える。そのような姿勢によって、過去の文学史が現代性を帯びて蘇ってくるであろう。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>特に、なし。 ただし、前期に「文学A」を履修しておくこと、いっそう深く学習できる。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
<p>特に、なし。 ただし、前期に「文学A」を履修しておくことを、勧める。</p>

【教科書等】
<p>使用しない。講義は、プリントないし口頭で行う。口頭で話す内容を適切にノートに書き留める学力も、学生時代のうちに身につけてほしい。そうは言っても、なるべくプリントをたくさん使用する予定。</p>

【授業内容とその進め方】

次のような講義内容を考えている。それぞれが、1～2回。

- ・古代神話は、何のために作られたか。
- ・王朝物語には、なぜ「男と女の恋愛」ばかりしか書いてないのか。
- ・随筆というジャンルは、本当に日本にあったか。
- ・人はなぜ、日記の中に嘘を書くのか。
- ・人はなぜ、旅に出るのか。
- ・子どもの読み物と大人の読み物は、違うのか。
- ・日本を代表する研究書にはどのようなものがあり、どこが優れているのか。
- ・評論とは、どのような行為か。
- ・日本人の考える「幸福」とは、何か。
- ・文学の最も深い分析方法は、どのようなものか。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末の論述式試験を、最重視する。ただし、学期途中で小レポートを課す。この小レポートを未提出であれば、試験の成績からワンランク下げる。また、時々出席を取る。

講義内容を理解しようとしたか、講義に触発されて進んで読書し、思索を重ねて自分の考えを持つに至っているか。自力で文学作品の分析が可能か、などの観点から採点を行う。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

前期の「文学A」の受講者でなくとも、聴講を認める。

だが、例年、不思議なことに、文学Aの成績よりも、文学Bの成績の方が平均点が低い。おそらく、前期で単位が取れたことに満足し、後期の学習がおろそかになっているのだろう。

前期の文学Aで「優」や「良」だった学生も、気を引き締めて、文学Bに望んでほしい。

電気通信大学 平成19年度シラバス

--

【その他】